

水の学校

2014年度「水の学校」連続講座の様子

1

開校式「水の学校」とは？～水から見える私たちの暮らし

ファシリテーター：橋本淳司氏（水ジャーナリスト、アクアコミュニケーター）

受講生同士、初対面の方と打ち解けるため、住んでいる流域ごとにグループを作って水辺の思い出を披露しあうアイスブレイクや、水のしずくになって循環の旅に出る「みずたび」を体験。水循環の中に私たちの暮らしがどのように関わっているかについて考えました。後半には、武蔵野市の下水道についてお話があり、これから始まる講座をより深めるための導入となりました。

受講生の感想

- ・水の循環に自分たちの生活が入っていることを今までは認識していなかった。
- ・使う水ばかり気にしていたが、流す水の行き先を深く考えさせられた。



2

武蔵野市の水はどこから？～奥多摩町水源の森訪問

協力：奥多摩町観光産業課

奥多摩の森林は、武蔵野市の上水道原水の8割を占める地下水の重要なルーツのひとつです。現地では、樹齢1000年ともいわれる「倉沢のヒノキ」を見に山登りをしたり、「森林セラピー」のコースでもある登山トレイルを歩いた後、武蔵野市の上水道についてのお話をききました。

受講生の感想

- ・倉沢のヒノキは見応えがあった。
- ・改めてこんな遠くから来ている水なんだとありがたく思えた。
- ・奥多摩に初めて行って、武蔵野市からそう遠くないところに豊かな自然があることを知った。



3

見る・知る・ふれる下水道

～三鷹市東部水再生センター・小平市ふれあい下水道館

協力：三鷹市水再生課、小平市ふれあい下水道館

武蔵野市は独自の下水処理施設を持たず、汚水は東京都の水再生センターで処理しています。そのため、三鷹市東部水再生センターで、処理工程を見学しました。

小平市ふれあい下水道館では、地下25mにある内径4.5mの使用中的下水道管内部に入り、においや湿度などを体感しました。



受講生の感想

- ・自然界へ戻す技術が一番大事といわれますが、微生物の働きや偉大さ！エコロジーとは何か、本当の意味がわかった気がします。
- ・下水のお話をこんなにもたくさん聞け、下水に愛情がわきました。
- ・下水道管の中に入って、やはりあの臭気…。水再生センターで放流できるまでにする処理はありがたいことだと思いました。ワムシがかわいい。

4

武蔵野市の水循環を考え、「環境フェスタ」で伝えよう

1～3回の講座を振り返って、感じたこと・気がついたことを話し合い、「むさしの環境フェスタ」の出展ブースで伝えたいことを出しました。フェスタでは受講生有志が「下水道、流せる？流せない？クイズ」や「きき水」コーナーを実施しました。

受講生の感想

- ・グループワークをすることによって、他の方が講座を通してどのようなことに興味をもったのか、様々な思いを知ることが出来てよかったです。
- ・水と一言でいっても色々な水があり、それをどのように伝えていっていいのかわからないアイデアがありました。

5

むさしの今昔を巡る～水のまちあるき

講師：平田英二氏（やとじい）

石神井川沿いの地形や水路等に精通する平田英二さんを講師に迎え、武蔵野市の水環境の変遷を歩いていただきました。仙川上流部の親水エリアや玉川上水沿いを散策し、最後は、すりばち状の凹地（くぼち）に位置する杵築大社へ到着。平坦に思える武蔵野市にも坂や凹地があることを体感しました。

受講生の感想

- ・川や水辺の大切さや役割について再認識できた。
- ・私のよく知っている所、よく通る所を歩きましたが、こんな所に水が通っていたのかとあらためて知りました。
- ・川の生成歴と水源とのかわりと…人の生活と深く関係している事を知り有意義でした。



6

ふり返りから今後のアクションへ！～水から始めよう

2回にわたるワークショップを通して、これまでの講座で得たものや周囲に伝えたいことを水の学校の未来のプログラムとしてまとめました。「下水のゆくえ」「水の今昔」「水の安全と水質」「水の循環」の4グループに分かれ、プログラムのテーマやメインの活動内容について話し合いました。

受講生の感想

- ・受講を通して、自分が面白かったこと、楽しかったことをうまく伝えられたら良いなあと思います。
- ・今までになく深いお話ができたのではないかと思います。
- ・ひとつのテーマに沿っても意見が分かれるので大変だなと思いました。



7

修了式・「水の学校」が考える、水の未来

ファシリテーター：橋本淳司氏（水ジャーナリスト、アクアコミュニケーター）

前回からの続きでグループに分かれ、水の学校の未来のプログラム案をPRチラシにまとめて発表し、よりよいプログラムにするための意見交換を行いました。締めくくり修了式を行い、邑上市長より修了証、名誉校長を務める水ジャーナリストの橋本氏より修了バッジが贈呈されました。

受講生の感想

- ・企画に終わらず、実現したいと思う。
- ・みなさまのすばらしい発想力に感服いたしました。
- ・内容の検討やコンテンツ制作にもう少し時間をかけたかった。

